

山形大学校友会理事会（第15回）議事録

平成26年2月14日(金)

15時00分～16時30分

(議題)

- 1 校友会表彰制度の創設について
- 2 平成25年度事業について
- 3 平成26年度事業について
- 4 その他

出席者

- 会 長： 結城章夫（学長）
副会長： 酒井順一、阿部宏慈
理 事： 丹野憲昭、阿部信行、秋田雅人、長沼龍平、佐藤和佳子、山崎洋一郎
齋藤博行、小山清人、佐々木正彦（竹田隆一代理）、神戸士郎、角田憲一
石井 滋、岩城功希
監 事： 丸山俊明、寒河江良三

欠席者

- 理 事： 佐藤直之、高橋浩一、上村勘二、佐々木優心、加藤丈夫、栗山恭直、山川光徳

議事に先立ち、議長（結城会長）から挨拶があり、その中では校友会の会員数、卒業生会員への支援、校友会の機能強化等について説明があった。

1 校友会表彰制度の創設について

阿部専門委員会副委員長から、専門委員会での検討概要について、次のとおり説明があった。

- ① 本件は、医学部から要望があった事案であり、これまで、校友会事務局で「素案」を提示し、各学部へ意見照会を行ってきた。
- ② 照会の結果、表彰制度の創設については、全学部からの賛同をいただいている。
- ③ 本日提案した「校友会大学院学生表彰に関する申し合わせ（案）」は、1月28日開催の専門委員会に取りまとめたものである。

次いで、事務局から、資料1に基づき詳細な説明があった。

説明の後、次のとおり質疑応答があった。（○：質問・意見、◎：回答）

- 本制度創設の趣旨を伺いたい。また、学長表彰等他の表彰制度との関わりは、どうなるのか。
- ◎本制度は、一般の学生が山形大学のトップを走る学生を見て、それを目指す学生に育つように大学院学生の研究意欲の向上や研究活動の活性化を主な目的として創設するものである。
他の表彰制度との関わりについては、「表彰の基準を明確に区別できないこと」や「ダブル受賞が可能である」等の寄せられた意見等を踏まえ、優秀な学生が業績を上げるのであれば他の表彰制度に該当した者についても、本制度での表彰を可としている。
- 表彰制度の創設自体には反対ではないが、社会に出てからの卒業生の活躍等を客観的に見ると、むしろ、在学中に成績が優秀でないと思われる学生を表彰することがあっても良いのではないか。
- 被表彰者が社会に出てからの状況をフォローできるようにすることを考えていただきたい。
- ◎年度毎に「表彰者リスト」を作成して校友会のホームページで紹介しながら、卒業後の状況をフォローできるようにしたい。

引き続き、議長から、本件について諮られた結果、原案どおり承認された。

2 平成25年度事業について

(1) 実施事業の進捗状況について

事務局から、本件は1月28日開催の専門委員会において報告し、当日の審議内容については参考資料4のとおりである旨報告の後、資料2に基づき各事業の進捗状況について概ね順調に進行している旨、説明があった。

(2) 収支決算見込みについて

事務局から、資料3に基づき、収支決算見込みについて説明があった。

説明の後、次のとおり質疑応答があった。(○：質問・意見、◎：回答)

- 今年度の執行残が見込まれるようであるが、2月10日(月)に理学部建物3階で火災が発生(原因は延長コードの老朽化)し、生活用品等は保険が適用されるが、学生のパソコン等にも被害が出ており、できれば校友会からも支援を考えていただくことはできないか。なお、被害の詳細は、現在調査中である。
- ふすま同窓会にもお願いする予定である。
- 理学部後援会には、今回の火災の件についてはまだ知らされていない。
- 不可抗力であるかどうか等、火災の原因にもよるのではないか。
- 理学部全体で学生のパソコンにどの程度被害があって、そこに校友会がどういう形で支援できるかということになるのではないか。
- ◎今年度の執行残とは切り離し、次年度の予算の中で検討することになると思われるの

で、被害の詳細が判明した段階で、とりあえず被害状況（品名、金額など）をお知らせいただきたい。

引き続き、議長から、平成25年度事業報告及び収支決算については、会計監査を行った上で、専門委員会の審議を経て、6月中旬頃に開催する次回の理事会で審議いただく予定である旨説明があった。

3 平成26年度事業について

事務局から、本件は1月28日開催の専門委員会において検討し、当日の審議内容については参考資料4のとおりである旨報告の後、資料4～6に基づき、次のとおり説明があった。

- ① 資料4の平成26年度予算概要（イメージ）については、平成25年度の収支決算見込みを踏まえたものである。なお、会費収入については、一般会員（卒業生・教職員）の加入増加を見込んで計上した。事業費は今年度の予算額と同程度とし、運営費は、今年度の決算見込み額を計上している。
- ② 平成26年度事業に係る申請は、昨年度と同様に各種団体や各部局に公募し、提出期限を平成26年3月31日（月）としたい。なお、事業計画書の様式は、資料5のとおり本年度と同様としたい。
- ③ 専門委員会での検討の結果、資料6のとおり15件を継続事業とする。

引き続き、議長から、事業計画書（様式）及び継続事業（15件）について諮られた結果、原案どおり承認された。

関連して議長から、平成26年度校友会の日程について資料7のとおり説明があった。

4 その他

(1) 山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワークの創設

事務局から資料8に基づき、次のとおり説明があった。

- ① 東地区の同窓会各支部と校友会との情報交換会を、昨年12月に「本学東京サテライト」で開催した。一昨年に続き2回目の開催になる。
- ② そこで、首都圏での連携協力を更に推進するため「山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク」が設立され、会長には岩城功希氏（鶴窓会関東支部事務局長）を選出した。
- ③ 当面の事業としては、「山形大学OB・OGセミナー」への協力等を考えている。

説明の後、次のとおり質疑応答があった。（○：質問・意見、◎：回答）

○ネットワークの創設に関する情報は同窓会本部に周知されていない。情報交換会に出席した支部役員からも異論が同窓会本部に届いている。（米沢工業会：山崎理事）

◎情報交換会の開催については、各同窓会本部にも案内しており、昨年度は鶴窓会会長にも出席していただいている。今回のネットワークは、「山形大学OB・OGセミナー」への協力等、各同窓会の首都圏での緩やかな連携協力を目指すものである。

○「東京ふすま会」は、会費を徴収している個人としての集まりであり、ふすま同窓会は運営に関わっていない。

校友会と同窓会との役割がだぶっているようにも思われ、同窓会の将来の在り方や校友会の役割などについて、もう少し整理する必要があるのではないか。（ふすま同窓会：長沼理事）

◎本ネットワークは、首都圏に設置されている各同窓会支部のご理解を得て、昨年12月に創設されたものであり、本日の理事会では「報告事項」としている。

○目的や事業は理解できるが、第5条（会員の構成）、特に（3）「米沢工業会東京支部会員～同千葉支部会員」のところについては、表現を見直してもらいたい。

◎以前から、東京でのOBセミナーの際に、首都圏在住の本学の卒業生が参加できる学部横断的な組織ができないかという話題が出ており、当面は相互の親睦を目的として発足したものである。

今後、スムーズな運営ができるよう、必要な規約改正も含め、検討させていただきたい。

(2) 平成25年度山形大学OBセミナー

事務局から次のとおり説明があった。

- ① 今年度の「山形大学OBセミナー」は、3月1日（土）に本学東京サテライトで開催する。
- ② 昨年度より、本セミナーは東京サテライトと校友会との共同で開催しており、今年度は「首都圏ネットワーク」にも協力をいただくこととしている。

最後に、議長から、学長の任期が本年3月31日までとなっており、校友会会長を退任することから、これまでの協力に対し謝辞が述べられた。

[配付資料]

- 資料1 校友会大学院学生表彰に関する申し合わせ（案）
- 資料2 平成25年度実施事業進捗状況一覧
- 資料3 平成25年度収支決算見込み
- 資料4 平成26年度予算概要（イメージ）
- 資料5 平成26年度事業計画書（案）
- 資料6 平成26年度校友会継続事業（案）
- 資料7 平成26年度校友会の日程（予定）
- 資料8 山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク規約
- 資料9 平成25年度山形大学OB・OGセミナー

[参考資料]

- 1 山形大学校友会会則（H25. 4. 1 一部改正）
- 2 山形大学校友会専門委員会規程（H25. 6. 11 一部改正）
- 3 理事会第14回（H25. 6. 11）議事録
- 4 専門委員会第14回（H26. 1. 28）議事録

（席上配付）「大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援」報告書

（席上配布）山形大学雪合戦大会報告

（席上配付）校友会会報（N o 3）

[その他]

次 第 席 次

理事・監事一覧（H26. 2. 14 現在）

校友会専門委員会一覧（H26. 1. 28 現在）